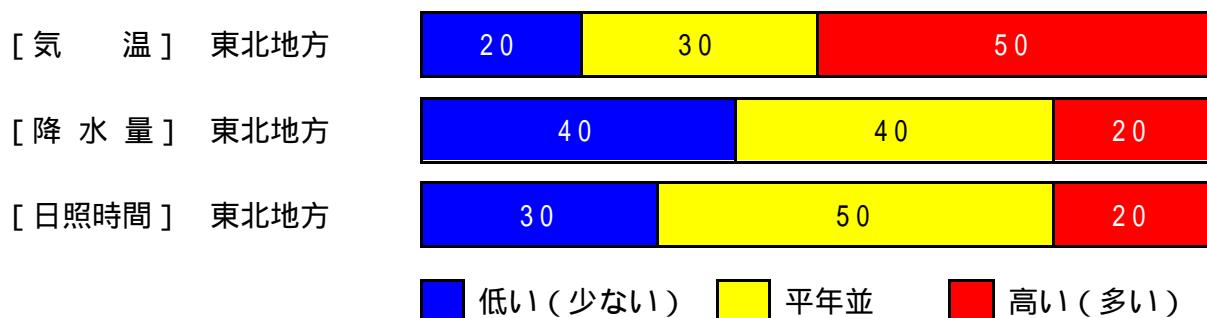


# 東北地方 1か月予報の解説(予報期間:5月19日~6月18日)

平成13年5月18日 仙台管区気象台

## 1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



- [気温]: 東北地方は「高い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」でその確率は30%です。「低い」の可能性は20%と小さい。
- [降水量]: 東北地方は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。
- [日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「少ない」でその確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

## 2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

### 向こう1か月

東北地方の天気はおおむね周期的に変化するでしょう。前半は、低気圧や前線による天気の崩れは小さい見込みです。後半は、前線やオホーツク海高気圧の影響で一時ぐずつくでしょう。

平均気温は高いでしょう。

向こう28日間の晴れ日数: 東北地方で約15日

### 各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 高気圧に覆われおおむね晴れるでしょう。

(5月19日~5月25日) 平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数: 東北地方で約4日

2週目…………… 天気はおおむね周期的に変化しますが、低気圧や前線による崩れは小さいでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

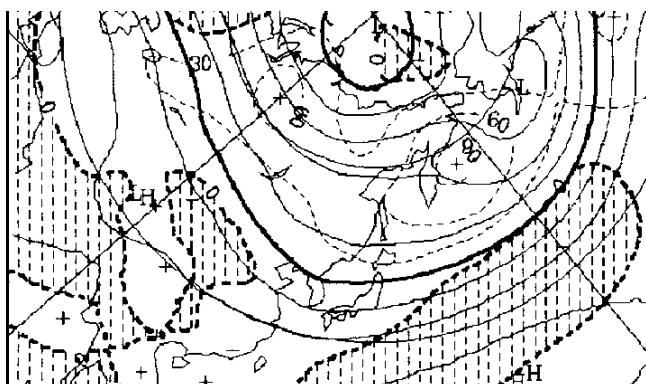
平年の晴れ日数: 東北地方で約4日

3~4週目…………… 天気はおおむね周期的に変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響でぐずつく時期があるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数: 東北地方で約7日

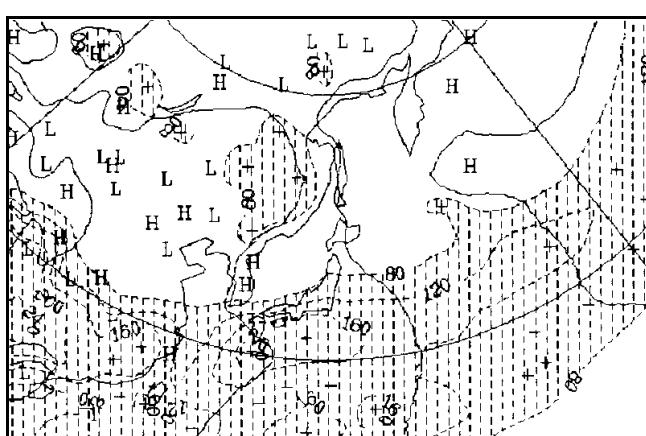
### 予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



#### ・500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、日本付近はカムチャツカ半島付近に中心を持つ正偏差に広く覆われる。日本付近は弱い西谷傾向で、天気は周期変化が基調となる。

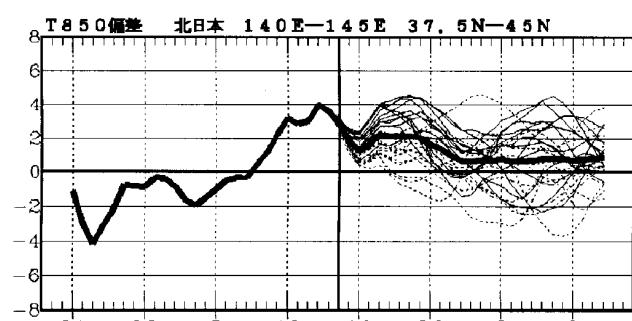
週別（図略）では、期間を通して日本付近は正偏差に覆われる。1週目の流れはソーナル。2週目は西谷傾向。3~4週目は太平洋高気圧とオホーツク海の気圧の尾根がともに発達し、前線の活動が活発になる見込み。



#### ・地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本付近は弱い高圧部。降水域は東北地方南部までかかっているが、まとまった降水域の中心は日本の南岸から九州方面。

週別（図略）では、1週目は日本付近は弱い降水域に広く覆われる。2週目は、南海上から九州にかけて弱い降水域がみられるが、本州以北にはからない。3~4週目は、東北地方に弱い降水域がかかっている。前線に対応するまとまった降水域は本州南海沿い。また、オホーツク海には高気圧が予想される。



#### ・北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1週目は平年より2程度高い。その後下降し、2週目以降は平年に近い値で推移する。

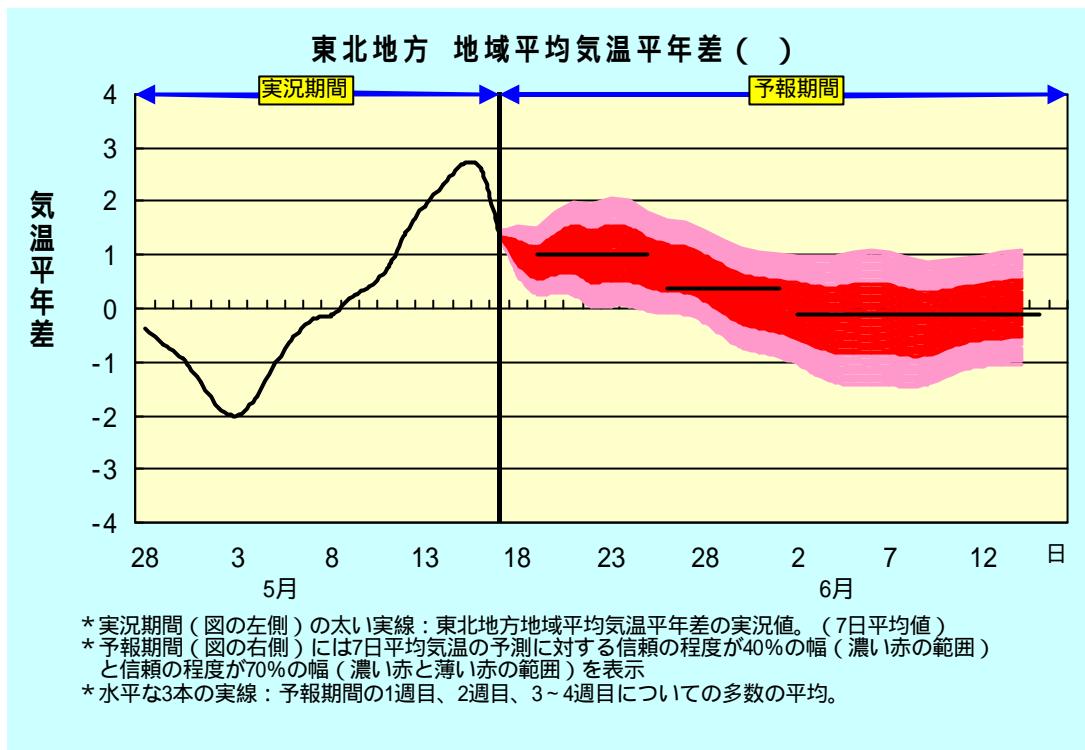
### 北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

(縦軸: 気温平年差 ( ) 横軸: 日付)

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）

### 3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

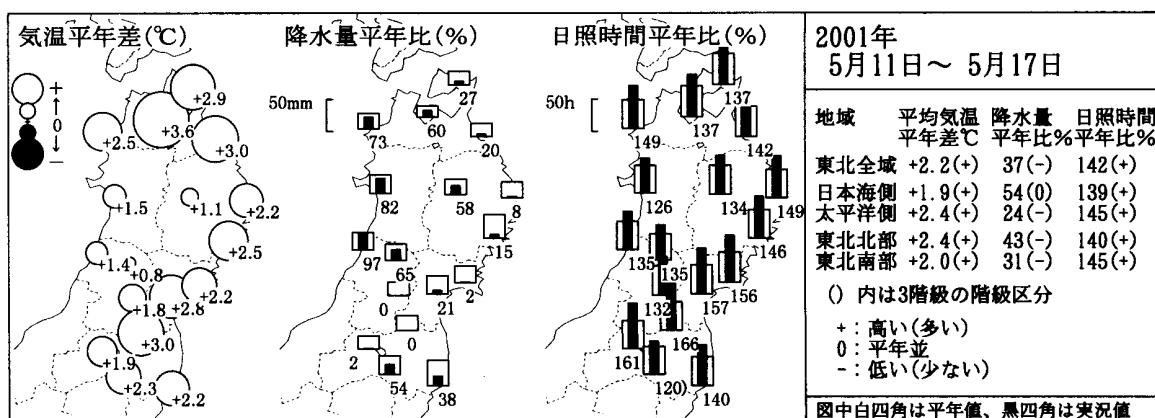
週別の気温は、1週目「高い」、2週目「平年並」、3~4週目「平年並」を予測している。なお、予報の信頼度は大きい。



### 4. 最近1週間（5月11日～5月17日）の天候の経過

この期間、11日は気圧の谷の影響で天気がくずれた。16日は寒冷前線が通過し、雨や雷雨となつた。その他の日は高気圧に覆われ晴れて、気温が高くなつた。東北南部や岩手県の沿岸部では、気圧の谷や前線による天気の崩れが小さく、4月にはいってからの少雨の状態がこの期間も続いた。

平均気温は、東北地方で平年差+2.2と高かった。降水量は、東北日本海側では平年比54%と平年並だったが、東北太平洋側で平年比24%と少なかつた。日照時間は、東北地方で平年比142%と多かつた。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）